

令和7年度学校だより

学校教育目標

自主 責任 明朗



キャッチフレーズ

夢・自信・誇り

六中だより 3月号

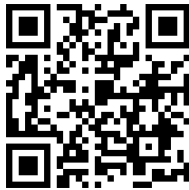
開校46年目

〒352-0023 埼玉県新座市堀ノ内3-1 1-1

TEL 048-478-2764 FAX 048-482-0136

HP <https://j-dairoku-c-niiza.edumap.jp>

→
第六中HP
→



～「夢・自信・誇り」を育む学校を目指して～
一人では越えられない困難も……

校長 中島 豊

たくさんの感動を残し、イタリアのミラノ・コルティナで行われたオリンピック冬季競技大会が閉会しました。より早く、より遠くへ、より美しく、それぞれ競い合う競技そのものにわくわくさせられたのはもちろんですが、競技後の選手のインタビューを聞いたり新聞の記事を読んだりして、それぞれの結果に至る様々な背景を知ることにも楽しみでした。そのようにオリンピックに関する情報に接している中で、ほとんどの選手が何らかの形で、「応援してくれた皆さんに～」というようなことを言っていることに気がきました。

人は、何かをするときには、様々なことを頑張るための「エネルギー」にしています。もちろん、その競技が好きであり、やっていて楽しいことが第一です。「好きこそものの上手なれ」という言葉がありますが、上達するためにはそれを好きになることが一番です。しかし、今回感じたのは、オリンピックに出場するような一流のアスリートは「好き、楽しい」に加えて、さらに頑張るためのエネルギー源があったのではないかと、ということでした。報道の中には、選手とコーチ、あるいは家族に焦点を当てたものもありました。また、共に競技する仲間やスタッフ、現地の会場で声援を送る人、地元の応援団、テレビの前で応援する視聴者のコメントなども報道されました。

オリンピックに出場するためには、人並み以上の才能とともに、人並み以上の努力が必要です。その努力は、一般の人には想像がつかないような厳しいものでしょう。苦しいトレーニングの最中や、あるいは競技中に、選手の頭の中にはそういった人たちのことがあって、それらがきつと、「好き、楽しい」だけでは乗り越えることのできない困難を乗り越えるエネルギーになっていたのではないかと、と様々な報道を見て思いました。

昔、知り合いに、毎年全国大会に行くような部活の顧問をしている先生がいました。その先生に「どうしたら、そんなに強くなれるんですか？」と聞いたところ、ひとこと「感謝の心をもつことかな……。」と言いました。当時はその言葉の意味がよく分からなかったのですが、今なら分かるような気がします。

全ての子供たちを一流のアスリートに育てる必要はありません。しかし、私たち大人は、子供たちのよりよい成長のためには、励まし、応援して、頑張るエネルギーを上手に与えることが必要なのだと思います。また、六中の生徒たちには、周りに応援してもらえるような人に育ててほしい、そして、第六中学校も地域から応援してもらえるような学校でありたい、そんなことを考えた、今回のオリンピックでした。

